

しもむら いざん
下村 為山 (1865~1949)



洋画家。俳画家。松山城下(現、松山市)出身。本名は純孝。18歳の時に上京し、初め本多錦吉郎の洋画塾「彰技堂」に入塾、23歳のときに小山正太郎の画塾「不同舎」に移り洋画を学ぶ。明治23(1890)年4月の第3回内国勸業博覧会に出品した油絵「慈悲者之殺生」が褒状を受け、新鋭洋画家として注目され、明治前期洋画壇の青年画家として活躍する。

この頃、従兄弟の内藤鳴雪に同郷の正岡子規を紹介され、俳句に熱中するようになる一方、子規と邦画洋画優劣論を試み、その写生論は、子規の俳句革新に影響を及ぼした。また自身は、俳句の写生を日本画において試み、近代日本画に新境地を開くとともに、俳画の研究に没頭してその大家となった。俳人としても知られ、俳号を「牛伴」という。

略歴

慶応元(1865)年5月21日	松山城下の出淵町に生まれる。
明治15(1882)年	東京に出る。
9月	本田錦吉郎の洋画塾「彰技堂」に入る。
明治20(1887)年	小山正太郎の画塾「不同舎」に移る。
明治22(1889)年10月~11月	明治美術会第1回展に油画出品。以後、第3回展まで出品
明治23(1890)年4月~7月	第3回内国勸業博覧会に、油画「慈悲者之殺生」出品、褒状を受ける。
明治26(1893)年	春句会で「牛伴」号を用いる。
明治30(1897)年1月	柳原極堂が松山で発刊した俳誌『ほとゝぎす』の題字、挿絵を描く。
明治31(1898)年9月7日	正岡子規から東京版『ほとゝぎす』の表紙の相談と口絵の依頼を受ける。
明治38(1905)年	松山物産共進会に水墨画出品。松山で鉛筆画教育に尽力
大正6(1917)年5月	『画書之研究』創刊号に画論「俳画の生命」を発表
大正7(1918)年1月	俳諧堂主催の作品頒布会「為山先生十幅会」開催。俳画の大家として名声確立
昭和3(1928)年9月	日刊『日本及日本人』秋季増刊(正岡子規号)に「子規氏の絵」掲載
昭和20(1945)年4月18日	長野へ疎開
8月	富山へ移転
昭和24(1949)年7月10日	疎開先の富山県西砺波郡石黒村(現、同郡福光町)において85歳で永眠

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・石井昭一「下村為山」『伊予の画人』愛媛新聞社 1986年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 芸術・文化財』愛媛県 1986年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第17巻 吉田蔵沢・下村為山・三輪田米山』愛媛県教育会 1988年
- ・松山市立子規記念博物館『第26回特別企画展 画家下村為山』松山市立子規記念博物館 1992年
- ・山上次郎『子規の書画』改訂増補版 青葉図書 1992年
- ・渥美國泰『探求・下村為山』近代文芸社 1993年
- ・鴻池楽斎『画集 下村為山』思文閣出版 1994年
- ・松山・下村為山顕彰会『下村為山(牛伴)俳句集』高橋俊夫 1999年

〈主な収蔵資料〉…(P213, 83)